

事業の基礎情報

実施主体	諫早市
事業実施地域	諫早市
共創の類型	官民共創
他分野共創の類型	地域・観光・まちづくり・その他（過疎対策）
共創パートナー	諫早市、（一財）諫早市小長井振興公社(以下「公社」、長崎県交通局(以下「県交通局」、小長井地域「介護予防と生活支援の語らん場」(以下「語らん場」、こながい支えあいの会(以下「支えあいの会」)
運行形態	代替バス：自家用有償旅客運送 観光バス：許可登録を要しない運行
運行主体	（一財）諫早市小長井振興公社

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

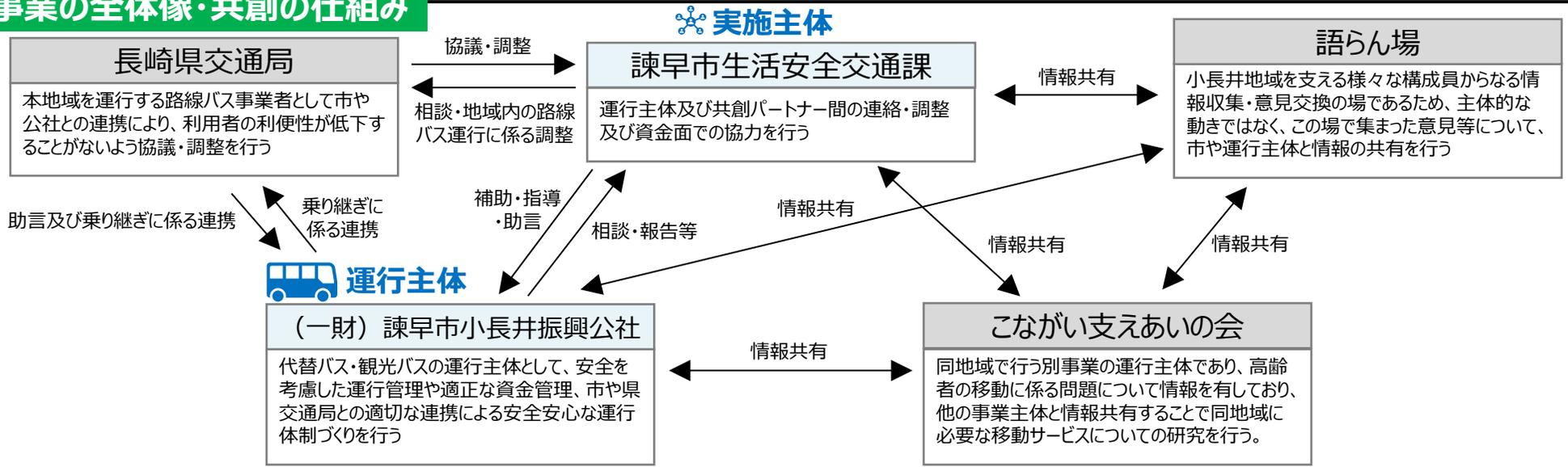
過疎地域に指定されている諫早市小長井地域では、少子化の進展や都市部への人口流出による公共交通利用者の減少、運転士不足等によりバス路線延長の短縮が予定されているため、幹線道路の交通手段の維持・確保を目的とした代替バスの運行及び交流人口の増加やにぎわいの創出のための観光バスの運行を併せて行う。

（事業の概要）

本地域において観光振興・地域振興に大きな役割を担っている公社及び地域の路線バス事業者である県交通局と連携・協力し、短縮されるバス路線における代替バスの運行、また、駅やバス停と観光地とを結ぶ観光バスの運行を行う。

また、同地域において、日常生活における移動手段の確保が困難な高齢者に対するボランティア輸送の実施を予定している支えあいの会と協力し、地域全体を網羅する持続可能な公共交通体系を構築する。

事業の全体像・共創の仕組み



取組の詳細

(地域の関係者との連携・協働)

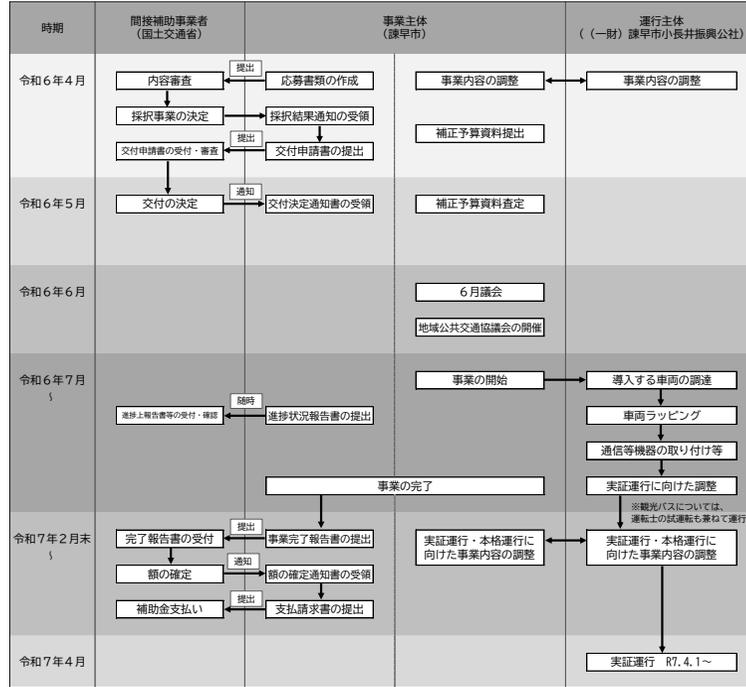
代替バスの運行を担う公社は市や県交通局と連携することにより、安全を考慮した運行管理や適正な資金管理体制を構築する。また、同地域で高齢者に対するボランティア輸送事業を行う支えあいの会や本地域の様々な構成員からなる語らん場（共創パートナー）と高齢者だけではなく地域の移動に係る諸問題について情報を共有することで、より良い移動の仕組みづくりに向けた体制を構築していくもの。

(実証事業により見込まれる効果)

路線延長の短縮が予定されている系統の輸送量は28.8、平均乗車密度は2.8であるが、短縮される区間においてはほとんど利用がなく、輸送量、平均乗車密度共に0に近い数値である。この区間において、代替バスへの変更及び利用者の多い時間帯に絞った運行への変更を行うことでこの路線における運転士1名を他の路線に配置転換することができる。また、この路線は大型バスで運行されているが、これを10人乗りの車両に変更することで二酸化炭素の排出量が軽減されるもの。公社が指定管理を受託している山茶花高原ピクニックパークの利用者は年間約9.4万人(R5)であるが、観光バスの導入により年間1,000人程度の増加が見込まれる。

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)



(事業実施手順)

- ① 応募書類の作成～提出 (市)
※採択の有無に関係なく事業は実施するため、運行主体、他の事業主体後事業内容に係る協議・調整を継続して行う。
- ② 採択事業の決定
- ③ 交付申請書の提出～交付の決定 (市)
※同時に6月補正により事業予算を確保
- ④ 地域公共交通協議会の開催 (市)
※協議会委員へ事業の説明
- ⑤ 導入する車両の調達・ラッピング・通信等機器の取り付け等 (運行主体)
- ⑥ 車両納入後、実証運行に向けた仮運行 (運行主体)
※本事業終了 (R7.2.28) 以降も実証運行まで継続して実施
- ⑦ 事業結果検証 (市・運行主体・事業主体)
- ⑧ 事業報告書の提出～補助金支払 (市)

※左図については、拡大したものを添付しています。

(補助事業実施後の予定)

実証運行に向けた車両購入のみを行い、バス路線が短縮される令和7年4月から実証運行を実施する予定。短縮される区間を運行するバス事業者に対し支出している補助金のうち、700万円程度が削減できると見込んでおり、この金額で賄うことのできる仕組みづくりを目指しているため、運行主体である公社と実証運行後も引き続き協議・調整を行い、大型バスでは運行できない地域（生活道路）での運行を検討するなど利用実態に応じた代替バスの運行を行う。休日に運行予定の観光バスは、本地域の関係者との連携を模索しながら、更なる交流人口の増加及びにぎわいの創出を目指す。